ウラジオストクでの留学生活

情報文化学科　２年　赤松大輝

〈はじめに〉

私は半年間、ロシアのウラジオストクで留学をしてきました。ここでは、留学をしていて困難だったことや、生活や授業、校外学習などを紹介していきます。

最初は「帰りたい」としか思いませんでした。学び始めたばかりのロシア語を日常で取り入れるのは非常に難しく感じましたし、この先どうなるのか自信がありませんでした。しかし、毎日を過ごしていく中で「帰りたくない」という思いがどんどん強くなっていきました。そう思えた事はロシア人の友達や同じクラスの友達、そしてなにより半年間ロシア語を一緒に学び、一緒に生活した留学メンバーのおかげです。最終的に「帰りたくない」と思えた事を嬉しく思います。

〈寮内での生活〉

私たちは学校の隣にある寮で、NUIS の学生と一緒に二人で一つの部屋でルームシェアをしていました。まず困った事が、寮で生活を始めた頃の約一か月間、シャワーが水しか出なかったことです。私は水で我慢して浴びていましたが、ケトルでお湯を沸かし、それを桶に入れて浴びる人が多かったです。あとはゴキブリ。部屋によっては物凄い数が出ます。これに関しては薬局、もしくはスーパーで殺虫剤を買うことを強くお勧めします。私はツェントルの近くにあるクレバーハウスというスーパーで購入していました。また、スーパーで買い物をするときですが、安い買い物をするときに大きいお金を出してしまうと、舌打ちをされたり、怒られたりします。これには日本とロシアの文化の違いを感じました。

食生活ですが、寮の近くに OK というスーパーがあります。安く売ってあるので頻繁に利用していました。そこで食材を買って、寮内で自炊していました。また、寮のすぐ近くに屋台があり、非常に安い値段でピロシキやガンブルゲル（ハンバーガーのようなもの）が売ってあるため、ここを多く利用していました。学校の中に学生食堂もあるのですが、値段の割に量があまり多く感じられなかったので、ほとんど利用していませんでした。あとは水ですが、これはスーパーでも買えますが、寮内でも買うことができます。

次に洗濯ですが、これは寮にいる受付の人にいえば洗濯機を使用することができるので大丈夫でしたが、ハンガーをもう少し持ってくればよかったなと思いました。

〈授業〉

最初は正直、全く分かりませんでした。容赦なく先生はロシア語を喋り続けます。今は授業のどこの部分をやっていて、何についてやっているのか。この先どうなるのかと思いましたが、一か月ぐらいで私は慣れることができました。慣れるまでの一か月間は授業中出てきた単語、先生が喋った単語をメモして調べながら、授業の形式になれるようにしていました。

授業の最初は受講者全員 NUIS の留学生で、約２週間後、実力で私たちは３クラスに分かれました。そこで中国人や韓国人の方、いろんな国籍の人と一緒に授業を受けました。

ウラジオストクでの留学生活

情報文化学科　２年　赤松大輝

授業中に分からないことがあったら、授業終わりに聞くようにするといいと思います。
授業は主に文法、歴史、音楽、美術、地理、解読、リスニング、ロシア語でのコミュニケーションです。その他には校外学習があります。
授業や宿題では電子辞書を多く利用していました。紙辞書だと調べる速度が追いつかない事があると思います。
留学に行くまで、もっとロシア語の単語を勉強し、覚えてくるべきだったと強く思いました。

〈校外学習〉

最初の一週間はたくさん歩きました。森さんという日本人のお世話係の方がウラジオストクにはどこに何があるのか、生活のしかた、バスの乗り方、銀行の使い方、換金の方法などを案内してくれました。この一週間で生活面は慣れたと思いました。

たくさんのコンサートにも行きました。ロシア語の歌やラップなども聞けました。ダンスなども見ました。特徴的な衣装でパフォーマンスする姿は、日本とはまた違う印象を受けました。また、実際に自分たちもダンスをやって、ロシア人と一緒にダンスをしたこともありました。最初は慣れず恥ずかしいものの、実際にやってみると楽しいものでした。

10 月にはロシア海軍の船の中に入ってそこでロシア海軍の方と仲よくなったり、船に関する単語を学習したりしました。ロシアの文化を知るよい経験になったと思います。

また 10 月には先生、留学している生徒たちと一緒にバーベキューをしながらバレー、サッカーをしました。そこで新たに友達もできました。バーベキューの前日は一緒のクラスの人と買い物に行き、そこでさらに交流が深まったのでよかったと思います。

11 月にはロシアの地理について勉強する為、博物館に行きました。その他には水族館にも行き、ロシアについて深く知ることができました。

12 月には音楽の授業で習った歌を、コンサートで披露するというものもありました。非常に緊張しましたが、よい経験になったと思います。

〈ウラジオストクの街並み〉

ウラジオストクの街並みはヨーロッパ調という感じで非常に美しいです。ツェントルという場所に市場があり、毎週のように私たち日本人留学生はそこまでバスで移動し、よく買い物をしていました。また、バスで行けるすぐ近くに噴水広場と海があります。日本にはないような美しさでした。

寮を出て坂を上り、少し歩くとウラジオストクを見渡せる高台があります。キレイな景色が見られるのでオススメです。私たちは帰る日の直前そこで夕日を見たのですが、その景色が忘れられません。

12 月の終わり頃になれば海に一度は行ってみるといいと思います。海が凍っていて、歩くことができます。凍った海に穴をあけ、釣りを楽しんでいる人を見ることができます。

ウラジオストクでの留学生活

情報文化学科　２年　赤松大輝

私たちはそこで思いっきり遊びました。

カフェや外食も私たちは多く行きました。カフェは美しいつくりのものが多かったです。外食は中国料理や韓国料理まで様々なものがありましたが、韓国料理の方は１時間待っても料理が出てこないし、値段も料理も態度も最悪でした。日本だとまず無いことだと思いますが、日本と違って良い店、悪い店がはっきりしている印象があります。

〈気候〉

ウラジオストクの気候は「暑い」か「寒い」のどちらかでした。丁度いい適温はない印象です。9 月、10 月は暑く、10 月の中旬以降から突然寒くなりました。日本からもっと防寒具やカイロを買えばよかったなと思いました。

寒さはキツイですが、意外となんとかなりました。私の場合、外が－20°などになると寒さより痛みがきます。手袋と帽子は必ず着用しないと辛いと思います。

〈危険を感じたこと〉

一人でスーパーへ行き買い物をした時の帰り道、男から「タバコの火はないか」と言われ、「ない」と答えると、今度はお金を要求してきましたが、無視して帰りました。ウラジオストクは日本と違ってこういう事もあると感じました。「金をくれ」と言われた事はこの他に２回ほどあります。

〈ロシア人や海外留学生の友達〉

最初にロシア人の友達が出来たのは、留学から一か月が過ぎたあたりでした。その友達は「日本人ですか？」と話しかけられ、そこからがんばって、ロシア語が伝わらなくても「話してみよう」と思い、なかなか意思は伝わりませんでしたが、それが逆に「もっと話してみたい」「もっと仲良くなってみたい」と思うようになりました。その友達は他の友達も紹介してくれて、結果的に多くのロシア人と友達になることができました。私が「明日日本に帰る」と伝えた時、多くの友人が「また必ず会おう」「いつか私たちは日本に行く」と私にメッセージをくれました。私自身、いつか必ず会う時まで、もっとロシア語も学びたいと思っています。その友達とは海やカフェに出かけました。一緒に楽しい時間を過ごせてよかったと思います。

ロシア人以外には、ロシア語を学ぶ時に一緒だったクラスの友人と仲よくなりました。一緒に昼ごはんを食べたり、授業の合間に雑談をしていました。アメリカ人の友達と図書館で一緒にロシア語の勉強をし、私が日本語をアメリカ人の友達に教え、その友達は、私に英語を教えたりなんてこともありました。

ロシアでできた友人たちとは、今は FACEBOOK を通して連絡しています。留学に来る前に FACEBOOK のアカウントを作っておけばよかったなと思いました。

ロシア人や他の留学生と仲よくするにあたって一番大切な事は「伝えよう」とすること

ウラジオストクでの留学生活

情報文化学科　２年　赤松大輝

だと思います。最初は緊張しますが、お互いの意思や考えが伝わった瞬間は、互いにすごく嬉しいし、もっと話してみたいと思えるようになります。

〈留学を振り返って〉

留学に出発してから帰国するまで、一瞬に感じました。ウラジオストクに着いた当初は日本と違う環境で戸惑う事がたくさんありました。日本とウラジオストクの生活や文化の違い、環境を受け入れるのに苦労しました。日本とは違う環境の中で多国籍のクラスの人、留学メンバーと一緒に勉強し、ロシア語を勉強できて本当によかったと思います。留学当初は不安で仕方がありませんでしたが、時間が経つにつれ少しずつ生活に慣れ、多くの人と友達になり、勉強していくうちに「帰りたくない」という気持ちが強まっていきました。

後悔もあります。留学後半、いろいろな友達の誘いを忙しさのあまり断り続けてしまったことです。他にもいろいろありますが、少し後悔を残すことによって、今後の自分の為にもなり、留学でのよい経験になると思いました。

また、ウラジオストクで生活していく中で留学メンバーと一緒にたくさんカフェや買い物、観光に行ったのは最高の思い出です。私が熱を出した時や困難にあたった時、助けてくれたのも多くの留学メンバーでした。感謝しきれません。

留学に行こうかどうか迷うのならば、絶対に留学に行くべきだと思います。日本とは生活、文化、全てが違うウラジオストクで生活することで、語学力はもちろん、得るものがたくさんあります。私はこの留学を通して大きく変わったものもあるし、得たものもたくさんあります。

最後に、この留学を支えてくれた先生方々、留学メンバー、両親、本当にありがとうございました。

ウラジオストクでの留学生活

情報文化学科　２年　赤松大輝